

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	H18年12月開設。同センター内にサテライト特養、ショートステイ、訪問介護ステーション併設。こぶし園初の小規模として地域啓発等を行っています。住み慣れた地域でその人らしい生活が維持できるように柔軟なサービスを提供し、暮らしを支えていけるように取り組んでいます。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護美沢	管理者	川上喜代子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	1人	1人	3人	4人	0人	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>「同じ目線」で現状取り組んでいるのか、なぜ外部評価に取り組んでいるのか、取り組む必要があるのか、誰の何の誰の改善計画なのかをしっかりと理解するためにも、定期的な学習会を開催していく。またその際、進捗状況などを詳細に伝え、意識の向上を目指す。</li> <li>事業所の課題を具体的にし、目標設定を明確(見える化)にしていく。</li> <li>ミーティング時に、共に目標に向かっての取り組み方や意味について随時説明し、同じ方向に向かって進めるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部評価に関する学習会を行ったが定期的実施出来ず、理解を深めるところまで至らなかった。</li> <li>ミーティングやモニタリング時、サービス内容や実施状況等を評価、分析し情報を共有して改善に努めることが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善計画が抽象的であるがゆえに、スタッフの評価も「よくできている」「ほとんどできていない」よりも「なんとかできている」「あまりできていない」という中間の評価が多くなったのではないかと。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>年度初めには各活動や行事、係等の計画を詳細に作成し、提示、全職員へ周知し、取り組む。</li> <li>ミーティングがケアの質向上に繋がるよう「ケアの根拠」を意識して話し合いを共有する。</li> </ol>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節を感じられる飾りつけを行い、入りやすい空間を演出していく。</li> <li>センター駐車場の花壇や特養ウッドデッキの活用方法は改善の余地あり。</li> <li>センター全体を巻き込めるよう意見交換の場を設け、有効的な活用方法を模索していく。土手川にフリーカフェ等の看板設置にてセンターのアピールにも取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所玄関の整理整頓を行い季節ごと、行事時飾りつけを行った。</li> <li>センター外に関しては継続した対応、取り組みが出来なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節を感じられるような飾りつけとあるが、2か月に1回の運営推進会議でセンターに来るだけなので、どのような取り組みを行ったという事例をあげてもらえると判断しやすい。</li> <li>施設的环境美化の役割分担がはっきりしていなかった。</li> <li>特養との協働ができていなかった。</li> <li>土手側を活用したセンターの取り組みは出来なかった。</li> <li>土手側の草取り年2回のクリーン作戦時のみ。利用者も草取りを行った。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>美化係を中心に計画を立て、四季の変化を感じられるような飾りつけや外回りの環境美化を継続して出来るよう行っていく。</li> <li>立てた計画を担当が周知、提示し更に活動の記録を残す。 (利用者様にとっての思い出及び職員の振り返りとしての記録)</li> </ol>

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報の内容は改善の余地あり。担当職員だけでなく、センター全体を巻き込み、アイデアを募るなどし、わかりやすい広報を目指していく。</li> <li>・行事やまちなねなど継続した取り組みを行っていく。また、ポスター等を近隣の商店やコミセンへ貼って頂けるよう再度開拓していく。</li> <li>・「いつ来てもよい」は逆に訪れにくい。まちなねなど行事にぶつけるなど日程を工夫し、また来たいと思ってもらえるような目玉を作っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報は読みやすいよう改善しているが年間予定等情報を発信出来ていなかった。</li> <li>・納涼祭周知の為、ポスターを近隣商業施設や近隣介護施設、交番等新たな場所へ貼らせて頂き広報することが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の行事案内は美沢地域しか回覧していないので、学校町まで回してもらったらどうか。</li> <li>・実際に事業所に地域の方から相談があったことはあるか。</li> <li>・事業所は地域のイベントを把握できているのか。四郎丸だよりが回覧板で回ってきているので、それらで把握できるのではないか。</li> <li>・スタッフも職を離ればその地域の一住民であるので、自分たちの住んでいる地域に関心を持ってもらいたい。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 広報配布の範囲を広げ周知を行う。(美沢1~4、学校町2) サポートセンターとしての役割を広報内容として追加していく。</li> <li>② 行事、イベント時にはポスターを配布し地域との継続した関りを行う。</li> </ol>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への外出を積極的に計画していく。(近隣地域で行われている行事だけでなく、利用者の方が実際行きつけだった店や喫茶店などへの外出も含め計画・実施し、地域へ出向いていく)。</li> <li>・近隣の人と顔を見える関係作りを大切にしていきたいので、訪問や送迎時に挨拶などしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美沢町内のクリーン作戦にセンターとして参加し、町内の方々との関りができた。</li> <li>・地域のパン屋でパンを買って外出、花見外出はできたが、計画が不十分で、計画的に外出することが出来なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設問自体に無理があるのでは？地域の心配な方まで、関わるのは現実的に難しいのではないか。</li> <li>・利用者だけでなく、利用者の家族が元気かどうか？を把握できるように関わっている。まずは目の届くところから取り組んでいる。(他事業所意見)</li> <li>・美沢地区に住んでいないと「わからない」と答えざるを得ないが、町内会長が「関りが出来ている」と評価していることの意義は大きいのでは。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 年間計画を立て事前に外出先の情報を確認し安全等に配慮する。お花見等、地域への外出を定期的に行い地域交流に深める。</li> <li>② 計画以外でも外出出来る際は柔軟に対応していく。</li> </ol>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議の意味・必要性をスタッフが知ることも必要。その為にも様々なスタッフが参加できる機会を作る。</li> <li>・地域における課題(認知症対策等しっかりテーマを決めて)を取り上げ、共有していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるべく多くのスタッフが運営推進会議に参加出来るよう対応している。</li> <li>・地域における課題については把握できていないのが現状。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討のあり方・方法を検討して、行っていきたい。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 引き続き様々なスタッフが運営推進会議に参加し、その役割や地域との関わり、課題について学ぶ。</li> <li>② 報告会のみならず、会議毎にテーマを決めて会議を開催し、テーマの中に地域との関わりについても取り入れていく。</li> </ol>

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所が福祉避難所としての役割がある事や、災害時に地域に対し出来ることを具体的に提示し、広報に毎回記載していく。</li> <li>・過去には実際に町内会長等がセンターの防災訓練に参加されていたので、災害別で計画し、より多くの地域住民の参加を募り、それぞれの役割について共有していく。(最初は近所の方1名からでも参加してもらい実績を積み重ねていく)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報を活用しての防災・災害対策提示には至っていない。</li> <li>・地域との防災訓練は検討、実施予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練は事業所の中だけで、「地域の方役」で行っていた。もっと声掛けをしていくべきであった。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 事業所の特性を踏まえた防災訓練を実施して地域の方々にも参加して頂けるよう呼び掛け相互連携を図る。</li> <li>② 防災訓練後、広報を活用しセンターとしての役割を周知していく。</li> <li>③ 緊急時、福祉避難所としてなった場合のスタッフの行動を明確化させる。</li> </ol>
----------------------------	--	---	---	---